



牧師 間瀬 善彦

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります」(ヨハネ第一4章10節)。

聖書がわたしたちに語りかけるメッセージは、神はわたしたち1人1人を愛してくださっておられる、ということです。愛と申しますと、とかく日本では男女間の恋愛と勘違いされてしまいますが、そういうことではありません。神は御自分のたった独りの御子イエス・キリストさえ惜しまずに、わたしたち人間の罪のために十字架につけて犠牲にされたお方です。これは神にとって筆舌に尽くしがたいほどの大きな痛みでありましたが、神がわたしたち人間を愛するがゆえのご振る舞いでありました。

でも、神は愛であるということは、神がわたしたち人間の願いどおりに動いてくれることではありません。神はわたしたちのために、生きていく上に必要なすべてのものを備えてくださっていますが、どのように生きるかは、わたしたちに選び取ることを許されました。ですから、毎日を前向きに生きるのも、後ろ向きに生きるのも、わたしたちの生き方次第なのです。

聖書のイザヤ書5章に、「ぶどう畑の歌」があります。ここでは**農夫を神に、ぶどうを人間に**たとえています。農夫はぶどうを成長させるために、一生懸命努力いたします。当時のイスラエルでは、ぶどう作りは大変な作業でした。邪魔な石を取り除き、良く耕し、ぶどうは貴重な作物ですから、ぶどう泥棒のために見張り台まで立てて監視をしなければなりませんでした。このような手間と労力をかけてまでして、良いぶどうの実がなることを期待したのです。つまり、このような手間と労力をかけてまでして、神は人間を愛してくださっているのです。しかし、人間はその神の期待に反してしまいました。ですから、神は御自分の御子を人間としてこの世に送り、十字架につけなければならなかったのです。

わたしたち人間も同様で、親は可愛い子供のためならどんな苦勞もいとわず、慈しみ育てます。親に愛される経験をした子供は精一杯その親の愛に応えようとするでしょう。わたしたちも神の愛に精一杯応える者になりたいものです。

## 「悩みと共に」

生きていくということは、不安の連続だと思えます。子どもには子どもなりの悩みがあります。年をとってぼけてしまえば気が楽だなどという人がいます。認知症のお年寄りに誠実に接した小澤勲が、次のように書いています。「徘徊しておられる時も、激しく妄想をぶつけてこられる時でさえも、彼らの表情を見ると不安そうで、困惑しておられる様子がよく分かる」。また、うつ病の患者さんが増えているのは、不景気などで先行きに不安をもつ人が多いからだといわれています。

では、悩みや不安は、まったく無駄なものなのでしょうか。

先日、学生時代の友達と久しぶりに会うことになり、メールのやりとりをしました。メールの最後に、私はこの何か月かずっと悩んでいることについて書きました。友達には関係のないことでしたが、書かずにはいられなかったのです。友達からすぐに返信がきました。「生きていくと色々あるよね」。十代、二十代だった頃の友達からは出てこなかったであろう言葉です。彼女もまた、実際色々あったのです。私は、友達の返信を読んで、何か満たされた気持ちになりました。もちろん事柄は何も変わっていない。けれども、一人の人が自分の辛さをたしかに受けとめてくれたことを感じたのでした。数日後、友達と会って長い時間、話をしました。友達は、現在の自分の悩みを打ち明けてくれました。これは、私にとってさらに大きな喜びでした。私が自分の心のうちを明かしたことで、友達もまた心を開いてくれたのです。悩みが私たちの心を、より近付けてくれたといえるでしょう。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマ12章15節）と聖書ではすすめられていますが、私たちは人の喜びをなかなか自分のものとして喜ぶことはできません。しかし、悩みは分かち合うことができます。キリスト者同士なら祈り合うことができます。悩みは一人で抱え込んでしまうと、大きくなるばかりで、罪を引き寄せることにもなりかねません。教会の兄弟姉妹に悩みを打ち明け、神様に向かって共に祈るなら、重荷は、ずっとずっと軽くなるのです。

「さて、わたしたちには、……大司祭神の子イエスが与えられているのです。……この大祭司（イエス・キリスト）は、私たちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、私たちと同様に試練に遭われたのです。だから憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか」

（ヘブライ人への手紙4章14～16節）。

「神は真実な方ですから、あなたがたを、  
耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません」  
(コリント人への手紙 第一 10 章 13 節)。

悪いことが起きると「神なんかいるか!」と言いたくなります。お気持ちはお察しします。でも、神は試練もコントロールして「耐えられないほどの試練には会わせない」というセーフティネット(安全装置)まで用意していると聖書には書かれています。だったら最初から試練なんか与えないでくれ、というご意見もおありでしょう。その真意は神のみぞ知ることですが、脱出の道が約束された試練なら、本格的な避難訓練のように、その人の成長に役立つこともありそうです。幾多の困難を乗り越えた人の多くが備えている人格は、試練が無駄ではないことを物語っています。

(『聖書の品格』いのちのことば社より)

## 平和を求める祈り

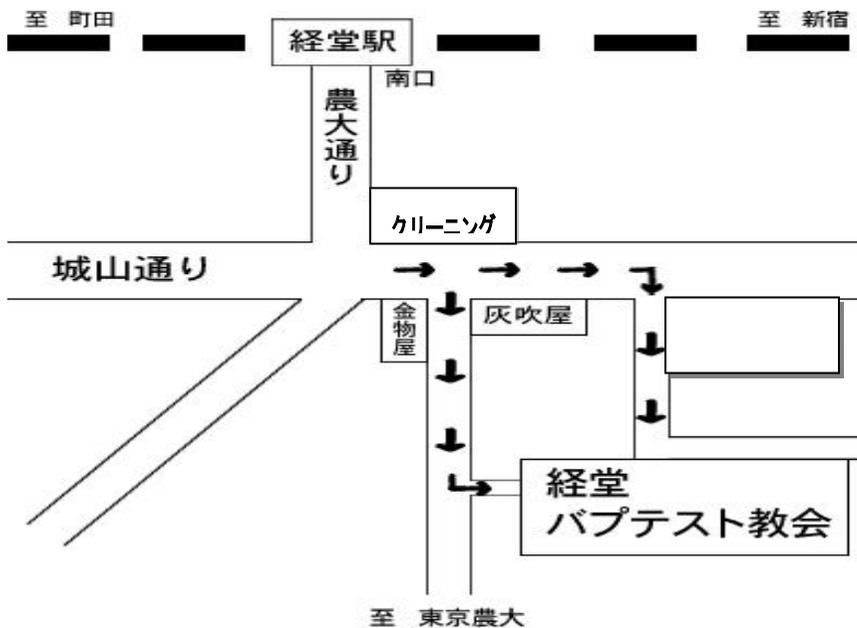
わたしをあなたの平和の道具としてお使いください  
憎しみのあるところに愛を  
いさかいのあるところにゆるしを  
分裂のあるところに一致を  
疑惑のあるところに信仰を  
誤っているところに真理を  
絶望のあるところに希望を  
闇に光を  
悲しみのあるところによるこびをもたらすものとしてください  
慰められるよりは慰めることを  
理解されるよりは理解することを  
愛されるよりは愛することを  
わたしが求めますように  
わたしたちは与えるから受け  
ゆるすからゆるされ  
自分を捨てて死に  
永遠の命をいただくのですから



(聖フランシスコの祈り)

## 日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～2時30分
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分



## 経堂バプテスト教会

牧師 間渕 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。